

# 中学生の攻撃性に関する研究

朝長 昌三・福井 昭史・小島 道生  
中村 千秋・小原 達朗・柳田 泰典

## The Study on Aggressiveness of Junior High School Student

Shozo TOMONAGA・Akifumi FUKUI・Michio KOJIMA  
Chiaki NAKAMURA・Tatsuro OBARA・Yasunori YANAGIDA

### はじめに

ヒトの攻撃性は犯罪や非行、また学校における諸々の問題・不適応行動、学校や家庭内の暴力に深くかかわっているとされている。また犯罪や非行は攻撃行動そのものであることが多く、いじめも他者への攻撃行動ととることができる。したがって、これらの問題行動と攻撃性との関連の強さが推測される。

文部科学省は昭和 57 年度より、公立中学校における校内暴力の状況について調査を行っている。文部科学省によると、校内暴力とは対教師暴力、生徒間暴力、器物損壊といった学校生活に起因して起こった暴力行為としている。それによると、平成 11 年度までの暴力行為は増加傾向にあったが、平成 16 年度には中学生の校内暴力は減少し、沈静化の傾向がみえるとしているものの、校内暴力件数は 23110 件であった。

以上のような青少年の問題行動の背景には、青少年の攻撃性の高まりが示唆される。したがって、青少年の攻撃性の高まりや衝動性の高まる兆候がみられた段階で、適切な対策を講じることが、非行の防止のために必要であることが、これまでの研究結果から結論づけられている。

本研究では、中学生の攻撃性について、中学生の攻撃性を敵意、身体的攻撃、言語的攻撃、短気の 4 要因から検討することを目的とした。

### 方 法

#### (1) 被験者

長崎市及び近郊の中学生 1920 名(男子 962 名, 女子 958 名)であった。

1 年生は男子が 350 名で、女子が 303 名、2 年生は男子が 317 名で、女子は 328 名、3 年生は男子が 295 名で、女子は 327 名であった。

#### (2) 調査

調査は、中学生用攻撃性質問紙（HAQ-S）を用いて行った。

本質問紙は敵意，身体的攻撃，言語的攻撃，及び短気の4要因に関する23項目から構成されている。被験者は各質問に対して「まったくあてはまらない」，「あまりあてはまらない」，「よくあてはまる」，「とてもよくあてはまる」の4段階の1つに回答した。

## 結 果

結果の処理については，以下のように行った。

敵意の質問項目は5，11，14，16，20，21，身体的攻撃は3，9，12，17，18，22，言語的攻撃は1，2，6，7，19，短気は4，8，10，13，15，23であった。各質問項目に対して「まったくあてはまらない」に1点，「あまりあてはまらない」に2点，「よくあてはまる」に3点，「とてもよくあてはまる」に4点を加算し，その合計点を各被験者の敵意，身体的攻撃，言語的攻撃及び短気の代表値としてt-検定を行い，以下のような結果を得た。

また各要因の合計点を，判定基準にしたがい「非常に低い」，「やや低い」，「普通」，「やや高い」，「非常に高い」と判定した。

### (1) 男子生徒における攻撃性の比較

#### 1) 全学年の攻撃性 (n=962)

敵意	: $\bar{x} = 13.680$ , $SD = 3.758$
身体的攻撃	: $\bar{x} = 15.595$ , $SD = 3.346$
言語的攻撃	: $\bar{x} = 13.333$ , $SD = 2.789$
短気	: $\bar{x} = 13.158$ , $SD = 3.234$

#### ① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = 14.011 \quad (p < .01) \quad d f = 961$$

#### ② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = 2.407 \quad (p < .05) \quad d f = 961$$

#### ③ 敵意と短気の比較

$$t = 4.228 \quad (p < .01) \quad d f = 961$$

#### ④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 19.228 \quad (p < .01) \quad d f = 961$$

#### ⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$$t = 24.539 \quad (p < .01) \quad d f = 961$$

#### ⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 1.472 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように，男子生徒は身体的攻撃が最も大きく，次に大きいのが

敵意であった。

2) 1年生男子の攻撃性 (n=350)

敵意 :  $\bar{x} = 13.451$ ,  $SD = 3.696$ , 判定 : 普通  
身体的攻撃 :  $\bar{x} = 15.637$ ,  $SD = 3.327$ , 判定 : 普通  
言語的攻撃 :  $\bar{x} = 13.377$ ,  $SD = 2.875$ , 判定 : やや高い  
短気 :  $\bar{x} = 13.651$ ,  $SD = 3.302$ , 判定 : 普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = 9.504 \quad (p < .01) \quad d f = 349$$

以上のように、身体的攻撃の方が敵意よりも大で、統計的にも有意であった。

② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = .310 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と言語的攻撃の間には統計的にも有意な差はなかった。

③ 敵意と短気の比較

$$t = .951 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と短気の間には統計的にも有意な差はなかった。

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 11.744 \quad (p < .01) \quad d f = 349$$

以上のように、身体的攻撃の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$$t = 12.585 \quad (p < .01) \quad d f = 349$$

以上のように、身体的攻撃の方が短気よりも大で、統計的にも有意であった。

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 1.400 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、言語的攻撃と短気の間には統計的にも有意な差はなかった。

以上の結果のように、1年生男子生徒の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大きく、判定基準では言語的攻撃が「やや高い」という判定であった。

### 3) 2年生男子の攻撃性 (n=317)

敵意 :  $\bar{x} = 13.830$ ,  $SD = 3.868$ , 判定 : 普通

身体的攻撃 :  $\bar{x} = 15.751$ ,  $SD = 3.241$ , 判定 : 普通

言語的攻撃 :  $\bar{x} = 13.319$ ,  $SD = 2.646$ , 判定 : 普通

短気 :  $\bar{x} = 13.183$ ,  $SD = 3.030$ , 判定 : 普通

#### ① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = 8.297 \quad (p < .01) \quad d f = 316$$

以上のように、身体的攻撃の方が敵意よりも大で、統計的にも有意であった。

#### ② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = 2.067 \quad (p < .05) \quad d f = 316$$

以上のように、敵意と言語的攻撃との間に統計的にも有意であった。

#### ③ 敵意と短気の比較

$$t = 3.238 \quad (p < .01) \quad d f = 316$$

以上のように、敵意の方が短気よりも大で、統計的にも有意な差があった。

#### ④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 12.880 \quad (p < .01) \quad d f = 316$$

以上のように、身体的攻撃の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意な差があった。

#### ⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$$t = 14.114 \quad (p < .01) \quad d f = 316$$

以上のように、身体的攻撃の方が短気よりも大で、統計的にも有意な差があった。

#### ⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = .692 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、言語的攻撃と短気の間には統計的にも有意な差はなかった。

以上の結果のように、2年生男子生徒の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大きく、短気が最も低かった。

### 4) 3年生男子の攻撃性 (n=295)

敵意 :  $\bar{x} = 13.790$ ,  $SD = 3.710$ , 判定 : 普通

身体的攻撃 :  $\bar{x} = 15.376$ ,  $SD = 3.476$ , 判定 : 普通

言語的攻撃 :  $\bar{x} = 13.295$ ,  $SD = 2.844$ , 判定 : 普通

短気 :  $\bar{x} = 12.546$ ,  $SD = 3.276$ , 判定 : 普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = 6.372 \quad (p < .01) \quad d f = 294$$

以上のように、身体的攻撃の方が敵意よりも大で、統計的にも有意であった。

② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = 1.871 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と言語的攻撃との間には統計的にも有意な差はなかった。

③ 敵意と短気の比較

$$t = 5.564 \quad (p < .01) \quad d f = 294$$

以上のように、敵意の方が短気よりも大で、統計的にも有意であった。

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 8.960 \quad (p < .01) \quad d f = 294$$

以上のように、身体的攻撃の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$$t = 16.237 \quad (p < .01) \quad d f = 294$$

以上のように、身体的攻撃の方が短気よりも大で、統計的にも有意であった。

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 3.360 \quad (p < .01) \quad d f = 294$$

以上のように、言語的攻撃の方が短気よりも大で、統計的にも有意であった。

以上の結果のように、3年生男子生徒の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大きかった。

(2) 女子生徒における攻撃性の比較

1) 全学年の攻撃性 (n = 958)

敵意 :  $\bar{x} = 13.777$ ,  $SD = 3.534$

身体的攻撃 :  $\bar{x} = 13.700$ ,  $SD = 3.277$

言語的攻撃 :  $\bar{x} = 12.571$ ,  $SD = 2.700$

短気 :  $\bar{x} = 13.545$ ,  $SD = 3.055$

① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = .619 \quad \text{有意差なし}$$

② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = 8.717 \quad (p < .01) \quad d f = 957$$

③ 敵意と短気の比較

$$t = 2.102 \quad (p < .05) \quad d f = 957$$

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 9.875 \quad (p < .01) \quad d f = 957$$

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$$t = 1.574 \quad \text{有意差なし}$$

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 8.744 \quad (p < .01) \quad d f = 957$$

以上のように、女子生徒の攻撃性に関しては、敵意と身体的攻撃及び身体的攻撃と短気の間には統計的に有意な差はなかったが、敵意・身体的攻撃と言語的攻撃の間には有意な差があった。

2) 1年生女子生徒の攻撃性 (n = 303)

敵意 :  $\bar{x} = 14.125$ ,  $SD = 3.851$ , 判定 : 普通

身体的攻撃 :  $\bar{x} = 14.020$ ,  $SD = 3.272$ , 判定 : 普通

言語的攻撃 :  $\bar{x} = 12.528$ ,  $SD = 2.665$ , 判定 : 普通

短気 :  $\bar{x} = 13.941$ ,  $SD = 3.226$ , 判定 : 普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = .455 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と身体的攻撃との間には統計的に有意な差はなかった。

② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = 5.951 \quad (p < .01) \quad d f = 302$$

以上のように、敵意の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

③ 敵意と短気の比較

$$t = .923 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と短気との間には統計的に有意な差はなかった。

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 7.254 \quad (p < .01) \quad d f = 302$$

以上のように、身体的攻撃の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$t = .434$  有意差なし

以上のように、身体的攻撃と短気との間には統計的に有意な差はなかった。

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$t = 7.098$  ( $p < .01$ )  $d f = 302$

以上のように、短気の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

以上の結果のように、1年生女子生徒の攻撃性に関しては、敵意が最も大きく、言語的攻撃が最も低かった。

3) 2年生女子の攻撃性 ( $n = 328$ )

敵意 :  $\bar{x} = 13.729$ ,  $SD = 3.342$ , 判定: 普通

身体的攻撃 :  $\bar{x} = 13.820$ ,  $SD = 3.314$ , 判定: 普通

言語的攻撃 :  $\bar{x} = 12.277$ ,  $SD = 2.550$ , 判定: 普通

短気 :  $\bar{x} = 13.506$ ,  $SD = 2.929$ , 判定: 普通

① 敵意と身体的攻撃の比較

$t = .449$  有意差なし

以上のように、敵意と身体的攻撃との間には統計的に有意な差はなかった。

② 敵意と言語的攻撃の比較

$t = 6.589$  ( $p < .01$ )  $d f = 327$

以上のように、敵意の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

③ 敵意と短気の比較

$t = 1.234$  有意差なし

以上のように、敵意と短気との間には統計的に有意な差はなかった。

④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$t = 8.338$  ( $p < .01$ )  $d f = 327$

以上のように、身体的攻撃の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$t = 1.963$  ( $p < .05$ )  $d f = 327$

以上のように、身体的攻撃の方が短気よりも大で、統計的にも有意であった。

⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 6.380 \quad (p < .01) \quad d f = 327$$

以上のように、短気の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

以上の結果のように、2年生女子生徒の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大きく、次が敵意であり、両要因との間には統計的にも有意な差はなかった。

#### 4) 3年生女子生徒の攻撃性 (n = 327)

敵意 :  $\bar{x} = 13.502$ ,  $SD = 3.396$ , 判定 : 普通

身体的攻撃 :  $\bar{x} = 13.284$ ,  $SD = 3.210$ , 判定 : 普通

言語的攻撃 :  $\bar{x} = 12.905$ ,  $SD = 2.845$ , 判定 : 普通

短気 :  $\bar{x} = 13.217$ ,  $SD = 2.983$ , 判定 : 普通

##### ① 敵意と身体的攻撃の比較

$$t = 1.057 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と身体的攻撃との間には統計的にも有意な差はなかった。

##### ② 敵意と言語的攻撃の比較

$$t = 2.613 \quad (p < .01) \quad d f = 326$$

以上のように、敵意の方が言語的攻撃よりも大で、統計的にも有意であった。

##### ③ 敵意と短気の比較

$$t = 1.472 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、敵意と短気との間には統計的にも有意な差はなかった。

##### ④ 身体的攻撃と言語的攻撃の比較

$$t = 1.917 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、身体的攻撃と言語的攻撃との間に統計的にも有意な差はなかった。

##### ⑤ 身体的攻撃と短気の比較

$$t = .392 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、身体的攻撃と短気との間には統計的にも有意な差はなかった。

##### ⑥ 言語的攻撃と短気の比較

$$t = 1.709 \quad \text{有意差なし}$$

以上のように、言語的攻撃と短気の間には統計的にも有意な差はなかった。



以上の結果のように、3年生女子生徒の攻撃性に関しては、敵意が最も大きく、言語的攻撃が最も低かった。

(3) 1年生男子と2年生男子の比較 (d f = 665)

- ① 敵意 : t = 1.291 有意差なし
- ② 身体的攻撃 : t = .446 有意差なし
- ③ 言語的攻撃 : t = .273 有意差なし
- ④ 短気 : t = 1.903 有意差なし

以上のように、1年生男子と2年生男子の攻撃性の間には統計的に有意な差はなかった。

(4) 2年生男子と3年生男子の比較 (d f = 610)

- ① 敵意 : t = .130 有意差なし
- ② 身体的攻撃 : t = 1.379 有意差なし
- ③ 言語的攻撃 : t = .107 有意差なし
- ④ 短気 : t = 2.500 (p < .05)

以上のように、2年生男子と3年生男子の敵意・身体的攻撃・言語的攻撃に関しては統計的に有意な差はなく、短気に関しては差があった。

(5) 1年生男子と3年生男子の比較 (d f = 643)

- ① 敵意 : t = 1.156 有意差なし
- ② 身体的攻撃 : t = .972 有意差なし
- ③ 言語的攻撃 : t = .364 有意差なし
- ④ 短気 : t = 4.252 (p < .01)

以上のように、1年生男子と3年生男子の敵意・身体的攻撃・言語的攻撃に関しては統計的に有意な差はなく、短気に関しては差があった

(6) 1年生女子と2年生女子の比較 (d f = 629)

- ① 敵意 : t = 1.385 有意差なし
- ② 身体的攻撃 : t = .761 有意差なし
- ③ 言語的攻撃 : t = 1.207 有意差なし
- ④ 短気 : t = 1.773 有意差なし

以上のように、1年生女子と2年生女子の攻撃性の間には統計的に有意な差はなかった。

(7) 2年生女子と3年生女子の比較 (d f = 653)

- ① 敵意 :  $t = .863$  有意差なし
- ② 身体的攻撃 :  $t = 2.101$  ( $p < .05$ )
- ③ 言語的攻撃 :  $t = 2.974$  ( $p < .01$ )
- ④ 短気 :  $t = 1.251$  有意差なし

以上のように、2年生女子と3年生女子の間には、敵意と短気に関しては統計的に有意な差はなかったが、身体的攻撃と言語的攻撃に関しては差があった。

#### (8) 1年生女子と3年生女子の比較 (d f = 628)

- ① 敵意 :  $t = 2.160$  ( $p < .05$ )
- ② 身体的攻撃 :  $t = 2.846$  ( $p < .01$ )
- ③ 言語的攻撃 :  $t = 1.714$  有意差なし
- ④ 短気 :  $t = 2.924$  ( $p < .01$ )

以上のように、1年生女子と3年生女子の間には、言語的攻撃に関しては統計的に有意な差はなかったが、他の要因に関しては差があった。

#### (9) 性差

##### 1) 敵意

- ① 1年生 :  $t = 2.279$  ( $p < .05$ ) d f = 651
- ② 2年生 :  $t = .355$  有意差なし
- ③ 3年生 :  $t = 1.012$  有意差なし

以上のように、敵意に関しては1年生女子の方が大で統計的にも有意であったが、2年生と3年生においては有意な差はなかった。

##### 2) 身体的攻撃

- ① 1年生 :  $t = 6.243$  ( $p < .01$ )
- ② 2年生 :  $t = 7.477$  ( $p < .01$ )
- ③ 3年生 :  $t = 7.802$  ( $p < .01$ )

以上のように、身体的攻撃に関しては全学年で男子の方が大で、統計的にも有意であった。

##### 3) 言語的攻撃

- ① 1年生 :  $t = 3.893$  ( $p < .01$ )
- ② 2年生 :  $t = 5.089$  ( $p < .01$ )
- ③ 3年生 :  $t = 1.706$  有意差なし

以上のように、言語的攻撃に関しては1年生および2年生男子の方

が大で統計的にも有意であったが、3年生においては差がなかった。

#### 4) 短気

- ① 1年生 :  $t = 1.128$             有意差なし
- ② 2年生 :  $t = 1.377$             有意差なし
- ③ 3年生 :  $t = 2.675$             ( $p < .01$ )       $d f = 620$

以上のように、短気に関しては1年生と2年生では統計的にも有意な差はなかったが、3年生では女子の方が大で統計的にも有意であった。

### 考 察

本研究の目的は、中学生の攻撃性を敵意、身体的攻撃、言語的攻撃、短気から検討することであった。

#### (1) 男子生徒の攻撃性

男子生徒の攻撃性に関しては、身体的攻撃の得点が有意に高いと報告されている(1998)。本研究においても身体的攻撃が最も大であった。すなわち、男子生徒は攻撃誘発刺激を受けた場合、身体的攻撃をとることが多いと考えられた。

判定基準の「やや強い」と「非常に強い」を強い攻撃性とした場合、強い身体的攻撃をとる生徒は33%であった。それに対して、強い敵意をもつ生徒は41%、強い言語的攻撃をとる生徒は52%、強い短気を有している生徒は40%であった。

以上のように、攻撃性の平均値からは身体的攻撃が最も大きかったにもかかわらず、判定基準からみると強い言語的攻撃をとる生徒の割合が最も大であった。強い短気で強い身体的攻撃をとる生徒は24%、強い言語的攻撃をとる生徒は25%であった。このことから、強い短気な男子生徒は約40%で、その約49%が強い身体的攻撃または強い言語的攻撃をとると考えられた。

また攻撃性の4要因のうち、強い攻撃性を1つでも有している場合を1要因型としたとき、80%の男子生徒が1要因型の攻撃性をもっていた。さらに、4要因すべてに強い攻撃性を有している場合を4要因型とした場合、9%の生徒が4要因型の攻撃性をもっていることがわかった。

以上のことから、中学生男子の攻撃性の特徴として、数値的には身体的攻撃が最も大きいこと、また質的な面からは約80%の生徒が1要因型の強い攻撃性を有していること、さらに約52%が言語による強い攻撃をとるということが考えられた。

#### (2) 1年生男子の攻撃性

1年生男子の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大で、他の要因との間にも統計的にも有意な差があった。すなわち、1年生男子は攻撃誘発刺激を受けたとき、身体的攻撃をとる男子生徒が多いと考えられる。また判定基準によれば、言語的

攻撃がやや高いものの、他の要因は普通であった。

強い身体的攻撃の生徒は 33%、強い短気の生徒は 50%、強い敵意の生徒は 50%、強い言語的攻撃の生徒は 62%、強い短気の生徒は 50%であった。

以上のように、1年生男子の攻撃性に関しては、平均値からは身体的攻撃が最も大であったが判定基準からみると、強い身体的攻撃は 33%、強い短気は 50%、強い敵意は 50%、強い言語的攻撃は 62%であった。

強い短気で強い身体的攻撃の生徒は 24%、強い言語的攻撃の生徒は 34%であった。このことより、強い短気の生徒は 50%で、その約 58%が強い身体的攻撃または言語的攻撃をとると考えられた。

1 要因型は 87%、4 要因型は 9%であった。

以上のことから、1年生男子の攻撃性の特徴として、数値的には身体的攻撃が最もおおいこと、また質的な面からは約 87%の生徒が 1 要因型の強い攻撃性を有していること、そして約 62%が言語による強い攻撃をとるということ、さらに身体的攻撃は他の要因に比べると大きい強い身体的攻撃にいたるのは約 33%ということが考えられた。

### (3) 2年生男子の攻撃性

2年生男子の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大で他の要因との間にも統計的に有意な差があった。すなわち、2年生男子は攻撃誘発刺激を受けたとき、身体的攻撃をとる生徒が多いと考えられた。判定基準によれば、4 要因ともに普通だった。

強い身体的攻撃の生徒は 42%、強い敵意は 49%、強い言語的攻撃は 45%強い短気は 43%であった。

以上のように、2年生男子の攻撃性に関しては、平均値からは身体的攻撃が最も大であったが、判定基準からは強い敵意の生徒の割合が最も大であった。

強い短気で強い身体的攻撃の生徒は 27%、強い言語的攻撃の生徒は 22%であった。このことより、強い短気の生徒は 43%で、その約 49%が強い身体的攻撃または言語的攻撃をとると考えられた。

1 要因型は 81%、4 要因型は 12%であった。

以上のことから、2年生男子の攻撃性の特徴として、数値の面からは身体的攻撃が最も大きいこと、また質的な面からは約 81%の生徒が 1 要因型の強い攻撃性を有していること、さらに1年生に比べると強い言語的攻撃の割合が小さくなったこととは反対に、強い身体的攻撃の割合が 42%と大きくなったことが考えられた。

### (4) 3年生男子の攻撃性

3年生男子の攻撃性に関しては、身体的攻撃が最も大で、他の要因との間にも統計的に有意な差があった。すなわち、3年生男子攻撃誘発刺激を受けたとき、

身体的攻撃をとる生徒が多いと考えられる。判定基準によれば、すべての要因が普通であった。

強い身体的攻撃の生徒は 28%、強い敵意は 28%、強い言語的攻撃は 46%、強い短気は 26%であった。

以上のように、3年生攻撃性に関しては、平均値からは身体的攻撃が最も大であったが、判定基準からみると強い身体的攻撃は 33%で、最も高い割合であったのは強い言語的攻撃で 46%であった。

強い短気で強い身体的攻撃の生徒は 17%、強い言語的攻撃の生徒は 15%であった。このことより、強い短気の生徒は 26%で、その約 32%が強い身体的攻撃または言語的攻撃をとると考えられた。

1 要因型は 70%、4 要因型は 7%であった。

以上のように、3年生男子の攻撃性の特徴として、数値の面からは身体的攻撃が最も大きいこと、また質的な面からは約 70%の生徒が 1 要因型の強い攻撃性を有していること、さらに強い敵意、強い身体的攻撃、強い短気の割合は小さくなっているのに、強い言語的攻撃の割合は約 46%ということが考えられた。

#### (5) 女子生徒の攻撃性

女子生徒の攻撃性に関しては、敵意が最も大であった。しかしながら、2番目に大きい身体的攻撃との間には統計的に有意な差はなかった。したがって女子生徒は攻撃誘発刺激を受けたとき、相手に対して敵意を抱いたり身体的攻撃をとる傾向があることがわかった。

判定基準からみた場合、強い敵意を有している生徒は 26%、また強い身体的攻撃をとる生徒は 32%、強い言語的攻撃をとる生徒は 37%、強い短気な生徒は 35%であった。

以上のように、攻撃性の平均値からは敵意が最も大きかったにもかかわらず、判定基準からみると強い言語的攻撃をとる生徒の割合が最も大であった。また強い短気で強い身体的攻撃をとる生徒は 20%、強い言語的攻撃をとる生徒は 16%であった。このことから、強い短気な女子生徒は約 35%で、その約 36%が強い身体的攻撃または強い言語的攻撃をとることが推測された。

1 要因型の生徒は 67%で、4 要因型は 5%であった。

以上のことから、女子中学生の攻撃性の特徴として、数値的には敵意が最も大きいこと、また質的な面からは約 67%の生徒が 1 要因型の強い攻撃性を有していることが考えられた。

#### (6) 1年生女子の攻撃性

1年生女子の攻撃性に関しては、敵意が最も大であったが、身体的攻撃と短気との間には統計的に有意な差はなかった。判定基準によればすべての要因は普通であった。

強い敵意をもっている生徒は 32%，強い身体的攻撃は 42%，強い短気は 38%であったが，強い言語的攻撃は 45%であった。

以上のように，1年生女子の攻撃性は，平均値からは敵意が最も大であったが，判定基準からは強い言語的攻撃の生徒の割合が最も大きかった強い短気で強い身体的攻撃の生徒は 24%，強い言語的攻撃の生徒は 22%であった。このことより，強い短気の生徒は 38%で，その約 46%が強い身体的攻撃または言語的攻撃をとると考えられた。

1 要因型は 75%，4 要因型は 7%であった。

以上のことから，1年生女子の攻撃性の特徴として，数値的には敵意が最も大きいこと，また質的な面からは約 75%の生徒が 1 要因型の強い攻撃性を有していること，さらに約 45%が言語による攻撃をとるということが考えられた。

#### (7) 2年生女子の攻撃性

2年生女子の攻撃性に関しては，身体的攻撃が最も大であったが，敵意との間には統計的に有意な差はなかった。また判定基準によればすべて普通であった。

強い敵意の生徒は 29%，強い身体的攻撃は 38%，強い短気は 44%，強い言語的攻撃は 30%であった。

以上のように，2年生女子の攻撃性は，平均値からは身体的攻撃が最も大であったが，敵意との間には統計的に有意な差はなかったため，敵意と同等と考えることができる。

強い短気で強い身体的攻撃の生徒は 27%，強い言語的攻撃は 16%であった。このことより，強い短気的女子生徒は 44%で，その約 43%が強い身体的攻撃または言語的攻撃をとる生徒であることがわかった。

1 要因型は 70%で，4 要因型は 5%であった。

以上のことから，2年生女子の攻撃性の特徴として，数値的には身体的攻撃が最も大きかったが敵意との間に差がなかったこと，また質的な面からは約 70%の生徒が 1 要因型の強い攻撃性を有していること，さらに約 44%が強い短気であることが考えられた。

#### (8) 3年生女子生徒の攻撃性

3年生女子の攻撃性に関しては，敵意が最も大であったが身体的攻撃や短気との間には統計的に有意な差はなかった。また判定基準によれば，4 要因ともに普通であった。

強い敵意の生徒は 18%，強い身体的攻撃は 18%，強い短気は 22%，強い言語的攻撃は 36%であった。

以上のように，3年生女子の攻撃性に関しては，平均値からは敵意が最も大であったが，判定基準の強い攻撃性からみると言語的攻撃の割合が最も大であった。強い短気で強い身体的攻撃の生徒は 9%，強い言語的攻撃は 12%であった。

このことより、強い短気の生徒は22%で、その約21%が強い身体的攻撃または言語的攻撃をとる生徒であることがわかった。

1要因型は57%、4要因型は3%であった。

以上のことから、3年生女子の攻撃性の特徴として、数値的には敵意が最も大きいこと、また質的な面からは約57%の生徒が1要因型の強い攻撃性有しており、これは他の学年や男子に比べると低い割合であること、さらに強い言語的攻撃が約36%であるが、他の要因は小さくなっていることが考えられた。

## (9) 性差

### 1) 敵意

1年生の敵意に関しては、女子生徒の方が男子よりも大で統計的にも有意であった。しかしながら、強い敵意の割合は女子の32%に対して50%であった。

2年生に関しては、統計的に有意な差はなかったが、強い敵意の割合は女子の29%に対して49%であった。

3年生に関しては、統計的に有意な差はなかったが、強い敵意の割合は女子の18%に対して28%であった。

嶋田ら(1998)は、敵意の得点は女子が男子に比べて有意に高いと報告している。本研究では男女の差はほとんどないといえたが、強さの割合では男子の方が大であるといえた。また学年が増すごとに、その割合は男女ともに減少傾向にあるといえた。

### 2) 身体的攻撃

1年生の身体的攻撃に関しては、男子生徒の方が女子よりも大で統計的にも有意であった。しかしながら、強い身体的攻撃の割合は男子の33%に対して42%であった。

2年生に関しても、男子生徒の方が女子よりも大で統計的にも有意であった。また強い身体的攻撃の割合は男子が42%で、女子は38%であった。

3年生に関しても、男子生徒の方が女子よりも大で統計的にも有意であった。また強い身体的攻撃の割合は男子が28%で、女子は18%であった。

以上のように、身体的攻撃に関しては男子生徒の方が女子生徒よりも強い傾向にあるといえる。

### 3) 言語的攻撃

1年生の言語的攻撃に関しては、男子生徒の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。強い言語的攻撃の割合は男子が62%で、女子は45%であった。

2年生に関しても、男子生徒の方が女子よりも大で、統計的にも有意であった。強い言語的攻撃の割合は男子が45%で、女子は30%であった。

3年生に関しては、男子生徒の方が女子よりも大であったが統計的には有意でなかった。強い言語的攻撃の割合は男子が46%で、女子は36%であった。

以上のように、言語的攻撃に関しては男子生徒の方が女子よりも大きい傾向にあるといえる。

#### 4) 短気

1年生の短気に関しては、女子生徒の方が男子よりも大であったが、統計的には有意でなかった。強い短気の割合は男子が50%、女子は38%であった。

2年生の短気に関しても、女子生徒の方が男子よりも大であったが、統計的には有意でなかった。強い短気の割合は男子が43%、女子は44%であった。

3年生の短気に関しては、女子生徒の方が男子よりも大で、統計的にも有意であった。強い短気の割合は男子が26%で、女子は22%であった。

以上のように、短気に関しては、女子生徒の方が男子よりも大きい傾向にあるといえる。

### 要 約

本研究では、中学生の攻撃性を敵意、身体的攻撃、言語的攻撃および短気から検討することを目的とし、以下のような結果を得た。

#### (1) 男子生徒の攻撃性

- ① 全学年の男子生徒の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、他の要因との間にも統計的に有意な差があった。
- ② 1年生男子の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、他の要因との間にも統計的に有意な差があった。
- ③ 2年生男子の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、他の要因との間にも統計的に有意な差があった。
- ④ 3年生男子の攻撃性は身体的攻撃が最も大で、他の要因との間にも統計的に有意な差があった。
- ⑤ 1年生と2年生の攻撃性の間には、統計的に有意な差はなかった。
- ⑥ 2年生と3年生の攻撃性の間には、短気に関しては統計的に有意な差があったが、他の要因に関しては有意な差はなかった。



- ⑦ 1年生と3年生の攻撃性の間には、短気に関しては統計的に有意な差があったが、他の要因に関しては有意な差はなかった。

## (2) 女子生徒の攻撃性

- ① 全学年の女子生徒の攻撃性は敵意が最も大であったが、身体的攻撃との間に統計的に有意な差はなかった。
- ② 1年生女子の攻撃性は敵意が最も大であったが、身体的攻撃および短気との間に統計的に有意な差はなかった。
- ③ 2年生女子の攻撃性は身体的攻撃が最も大であったが敵意との間には統計的に有意な差はなかった。
- ④ 3年生女子の攻撃性は敵意が最も大であったが、身体的攻撃および短気との間に統計的に有意な差はなかった。
- ⑤ 1年生と2年生の攻撃性の間には、統計的に有意な差はなかった。
- ⑥ 2年生と3年生の攻撃性の間には、敵意と短気には統計的に有意な差はなかったが、身体的攻撃と言語的攻撃には有意な差があった。
- ⑦ 1年生と3年生の攻撃性の間には、言語的攻撃には統計的に有意な差はなかったが、他の要因には有意な差があった。

## (3) 性差

### 1) 敵意

- ① 1年生においては、女子の方が大で、統計的にも有意であった。
- ② 2年生においては、統計的に有意な差はなかった。
- ③ 3年生においては、有意な差はなかった。

### 2) 身体的攻撃

- ① 1年生においては男子の方が大で、統計的にも有意な差があった。
- ② 2年生においては男子の方が大で、統計的にも有意な差があった。
- ③ 3年生においては男子の方が大で、統計的にも有意な差があった。

### 3) 言語的攻撃

- ① 1年生においては男子の方が大で、統計的にも有意な差があった。
- ② 2年生においては男子の方が大で、統計的にも有意な差があった。
- ③ 3年生においては、統計的に有意な差はなかった。

### 4) 短気

- ① 1年生においては、有意な差はなかった。
- ② 2年生においては、有意な差はなかった。
- ③ 3年生においては女子の方が大で、統計的にも有意な差があった。

## 参 考 文 献

市村操一 2004 怒りのコントロール ブレーン出版.

- 木野和代 2000 日本人の怒りの表出方法とその対人的影響 心理学研究, 70, No.6,494 – 502.
- 大竹恵子・島井哲志・曾我祥子・嶋田洋徳 1998 中学生用攻撃性質問紙 (H A Q S) の作成 (1) 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, p. 930.
- 嶋田洋徳・神村栄一・宇津木成介・安藤明人 1998 中学生用攻撃性質問紙 (H A Q S) の作成 (2) 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, p. 931.
- 島井哲志・山崎勝之 攻撃性の行動科学—健康編 ナカニシヤ出版.
- 山崎勝之・坂井明子・曾我祥子・大芦治・島井哲志・大竹恵子 2001 小学生用攻撃性質問紙の下位尺度の再構成と攻撃性概念の構築 鳴門教育大学研究紀要 (教育科学編), 16, 1–10.
- 山崎勝之 2002 攻撃性の行動科学 ナカニシヤ出版.